

## 10-5 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう⑤ — どのような被害が起こるかを考えましょう

風水害の被害のイメージを思い出して、大雨が降ったときに地域でどのような被害が起こるかをグループで話し合います。



風水害のとき、地域でどのような被害が起こるかを理解します。



時間軸

### 実施内容

以下の説明文【例】を参考にお話ししてください。

#### 1 起こりそうな被害の検討 (5分) ⇒資料10-4

##### 説明文【例】

(資料10-4を配付してください。)

これまでの体験などを踏まえて、大雨が降ったときに、地域で起こりそうな被害を考えてもらいます。考えたものを青色と赤色の油性ペンで地図上に書き込んでください。なお、起こりそうな被害については、資料10-4を参考にしてください。

##### <起こりそうな被害>

##### 浸水しそうな地域 ▶

大雨が降ったときに、地盤が低く、浸水することが予想される地域を青色の油性ペンで囲んでください。

##### かけ崩れや土砂崩れがおきそうな場所 ▶

大雨が降ったときにかけ崩れなどの土砂災害が発生しそうな場所を、赤色の油性ペンで囲んでください。

##### 水があふれでそうな側溝や水路 ▶

大雨が降ったとき水があふれでそうな側溝や水路を青色の油性ペンでなぞってください。

##### 道路を流れる雨水 ▶

大雨が降ったとき、道路に川のような水が流れることがあります。急勾配のある道路で流れが強く、流れる水で流されるような危険がある場所を地図上で見つけ、青色の油性ペンでその場所を記入してください。この時に、道路の勾配を考えて水の流れる方向も記入してください。

また、マンホールのふたが空いてしまうこともあるので、マンホールの場所に赤色の油性ペンで丸い印をつけてください。(マンホールについては、事前に調べておきます。)



#### 2 地図への書き込み、ふせん(メモ)の貼り付け (15分)

##### 説明文【例】

それでは、今説明した資料を参考に、グループごとに作業を行ってください。



グループで話し合いながら作業

#### ● 指導ポイント

小学生など、浸水の被害のイメージを地図に記入しにくいような場合には、過去に浸水した場所や実績などを話してあげるとイメージを持ちやすくなります。

#### ● 自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、指導者の手伝いをお願いすることが考えられます。

#### ● 準備するもの(目安)

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 資料「風水害で起こりそうな被害を考える」	グループに1つ	資料10-4 (配付用)
<input type="checkbox"/> 洪水地図	グループに1つ	

#### ● ひと工夫

- 透明シートに余裕があれば、別に1枚用意し、地域の把握の際に書き込みをしたビニールシートの上に、さらに新しい透明シートを被せて、被害の状況を書き込みます。そうすることで、項目別の記入された透明シートとなるため、見やすい地図が作れます。
- 市町村に協力してもらい、浸水想定区域や土砂災害の危険を示したハザードマップを参考に書き込みを行うと、さらに具体的なイメージを持つことができます。
- 資料10-4に示した項目以外に、書き込みを行いたいものがあれば、自由に書き込みをしてよいと伝えてください。
- 教材で示しているペンやシールの色は、ひとつの目安です。自由に色を決めてもかまいません。

#### ● 注意事項

油性ペンを使用する場合は、換気に気をつけてください。ベンジンはティッシュペーパーに浸して使用してください。また使用の際は、こぼさないように気を付けてください。換気は十分行ってください。